

令和元年度 第3回魚沼市総合計画審議会 会議録

日 時	令和2年2月6日（木）19時00分～21時00分
場 所	小出ボランティアセンター 多目的室
出席委員	八木由美子委員、穴沢邦男委員、三友泰彦委員、井口政秀委員(会長)、関 武雄委員、中島 拓委員、中出文平委員、米山幸子委員(副会長)、星俊寛委員、関川正規委員、滝沢茂委員、アナボヌ実砂子委員、佐藤喜郎委員、大嶋利明委員、椛澤一彦委員（15人）
欠席委員	多田勝也委員（1人）
事務局	総務政策部長 森山、企画政策課長 吉澤、企画調整係長 岡部、主任 浅井

（会議の要旨）

※要点のみ

1 開 会（19：00）

進行：会長

2 議 事

(1) 分野別検証に対する意見の確認

総合計画審議会による前期基本計画中間検証に対する意見(案)について、事務局で読み上げ確認

修正等の意見は、各委員から文書で提出（締切2/14）

(2) 前期基本計画の重点施策中間検証の調査

資料、作業手順について事務局説明後、委員による調査を実施
調査結果と主な意見は別紙のとおり

(3) 後期基本計画の策定について

第二次総合計画後期基本計画策定方針を報告

【質疑】

（委員）

『国土強靱化』『SDGs』とともに、『土地基本法』に基づく国土利用の在り方も取り入れた方が良い。人口減少が続く中で、維持管理ができなくなる土地が多くなってきたときの対策は、健全な都市経営を行ううえで重要になる。

（委員）

第二次総合計画に策定前に自治法が改正された。総合計画が法の規定に基づかないものとなったため、わかりやすく、特色を出した計画にして欲しいと要望したが、結果として従前の計画と変わらないものとなった。市民が努力目標とできるような具体的な計画として欲しい。

3 その他

(1) 連絡事項

- ・ 中間検証調査意見に対する変更箇所等の連絡は2/14までに文書で提出

・次回審議会の開催予定 令和2年5月中旬を予定。来月、日程調整

(2) その他

特になし

閉会 (21 : 00)

別紙 議事(2)前期基本計画 重点施策 中間検証調査(要旨)

第1項 人口減少問題対策

調査結果：

第1号 雇用の創出、就業の場の確保「やや不良」

第2号 結婚・出産・子育ての支援「やや不良」

=意見=

(委員)

人口減少が雇用の喪失や就業の場がないということの原因として考えているうえでの施策であり、企業誘致等が行われていると思うが、現実には、様々な産業で人手不足が言われている。働き場の数ではなく、どのような仕事があるのか、種類をそろえることが必要ではないか。

また、人口減少対策として、子育て等の支援のほかに、まちの魅力が大切になるのではないか。

結婚、出産、子育てに関しては、自分の周囲にも結婚をしていない人がいる。まず結婚に結びつけるにはどうしたら良いのか。世話をしてくれる大人が地域にいなくなってしまった。民間ではその部分をカバーすることが難しいので、市が結婚に対する意向調査などを行いマッチングするなど対策が必要となる。

(委員)

施策を構成する各事業での予算額の増減について、事業の内容と予算の関連が不明のため評価が難しい。予算を投入しているのに成果が上がらないのであれば、事業の見直しが必要ということになるが、その部分が評価シートから見えてこない。

公立保育園の整備はH30年度から予算が0となっている、今後、整備する必要がないのか。

子育てを楽しんでいる人が少ないのであれば、もう少し将来世代への投資も必要になるのではないか。また、結婚しても子育てが楽しくなければ意味がない。

(委員)

保育園の現場が大変だという声を聞く。ぜひ、働く人の意見も聞いて欲しい。

(委員)

共働き家庭に対して、子どもが病気になったときに仕事を休まなければならなくなる。この部分に対する支援は考えていないか

(事務局)

小出病院内に病児、病後児保育室を開設しているが定員が少ないため、インフルエンザ等の流行期には利用できない人もいるかもしれない。

(委員)

病児・病後児保育の定員が3人ということは、魚沼市の人口規模から考えれば、それほど悪い数字ではない。

(委員)

この地域は、小児科医療が非常に脆い状態となっていることを危惧している。

(事務局)

緊急の課題としてとらえている。今後の計画作りに活かしていきたい。

関委員

婚姻率や出生率が下がっていないから概ね良好ということではない。

第2項 地域資源の活用

調査結果：

第1号 食のまちづくり推進「やや不良」

第2号 地域資源を活かした産業おこし「やや不良」

＝意見＝

(委員)

観光の入込客の数字はH28～H30と目標値を大きく下回ったまま、ほぼ横ばいとなっているが、どのように捉えているのか。

観光振興のために一生懸命取り組んでいる人たちがいる中で、なぜ数字が上がらないのか、原因がこれであると言えないものか。

(委員)

魚沼市の観光客数は、ほぼ横ばいである。全国的に日本人観光客の減少を外国人観光客でカバーしている状況であるが、魚沼市は外国人への対応が他の地域と比べて弱い状態である。足立区等友好都市の子どもたちの受入で維持している最大の要因。

市内宿泊施設は、大手旅行会社ツアーなどの大規模な受入れがほぼ無理となっている。市内の受入れ体制が、問題である。

(委員)

即効性を求める施策と、じわじわと効果が現れる施策とがある。数字の上下に一喜一憂するのではなく、施策の性質を見極めた中で検証する必要がある。

(委員)

浦佐駅での酒のイベントが、盛況ではあったようだ。訪れたのが市内の人か、市外の人か分析する良い機会であると思う。

(委員)

魚沼ブランド推奨品について、目標値 65 品で掲げられている。スタート時は新たなブランドを立ち上げようということで始まったもの。ただし、ブランドの立ち上げは大変ということで、おすすめ品程度の位置づけとなってしまった。

今、推奨品に登録されている米でも、お客様には、栽培法、加工法、食味など、何が他と違うのか、どの部分で推奨品なのかが分からない。

この部分で、食のまちの取り組みを高めていこうということは違うのではないか。

(委員)

食まちに関連して、小学校向けに出前講座を行っているが開催件数が少なくなっている。

(委員)

ふるさと納税が増えているが、増えている理由を分析することで、市の魅力や伸びしろが分かるのではないか。

(委員)

食のまちづくり委員会のメンバーにもなっている。以前は、毎月のように会議が開催されていたが、H30 年度は 1 回だけ、R 1 年度は現在まで開催がない。せっかく委員会があるので、前のように意見を出し合える気化器があると良い。

また、食のフォーラムも昨年廃止された。市役所側からの話の切り出し方が、これからもやっていきたいか、やりたくないのかという感じでの聞き方であった。もう少し話し合いをして、大切なことであるので続けていければよかった。

(事務局)

食まちの事務局が R 1 に健康増進課から企画政策課へ移管された。予算の多くがイベントへ関連の補助金であり、商工観光に偏っている状況。食文化全体への取り組みは今後の検討課題である。

第 3 項 将来に向けたまちづくりの推進

調査結果：

第 1 号 市民参画の推進とコミュニティの充実・強化「やや不良」

第 2 号 「魚沼市版コンパクトなまちづくり」「やや不良」

＝意見＝

(委員)

市民参画の推進とコミュニティの充実・強化について、「概ね良好」と判断した理由を詳しく聞きたい。市民アンケート調査では「市民参画」についてわからないとの回答

が多くなっている。行政が市民参画のたになにも行っていないから「わからない」が多くなっているのではないかと考えれば、なぜ「おおむね良好」になるのかわからない。

(事務局)

コミュニティ協議会の設立が順調に進んでいるということから「おおむね良好」とした。ただし、市役所の検証は、前回の分野別調査をしていただく前に行ったもので、前回の分野別施策評価においてもコミュニティについては厳しい意見を頂いる。

(委員)

アンケート調査「どのような地域活動に参加しているか」という設問に対して、地域の祭り、伝統行事が 29.1%となっているが、その程度の関りを参加として捉えているのか疑問。準備から後片付けまでの参画なのか、祭りがあるから出かけましょうというレベルでは意味が変わってくる。

分析、検証もコミュニティ協議会のことだけで検証されていることも問題である。アンケートの取り方が非常に難しいと思うが、「概ね良好」とするのであれば、もう少し詳しい分析の記載が必要。